学　習　編

各教科の

学習内容と学習方法

国語（現代の国語・言語文化）

（1） 国語学習の目標

生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。（知識・技能）他者とのかかわりの中で伝え合う力を高める。（思考力・判断力・表現力）言葉のもつ価値への認識を深め、言語感覚を磨き国語を尊重して能力の向上を図る態度を養う。（学びに向かう力）

（2） 学習分野別の目標

国語の学習分野は「現代の国語」と「言語文化」に分かれます。シラバスを確認してください。

（3） 留意事項

日常生活で国語力を鍛えることも大切にしていきましょう。

〇幅広く本を読み、語彙を増やしつつ、ものの見方や感じ方、考え方を豊かにしよう。

〇新聞・雑誌・テレビなどから情報・問題を読み取り整理して、自分の意見を構築しよう。

〇自分の考えや意見を文章にまとめたり、友人と論じ合ったりすることで、伝え合う力を高めよう。

（4） 最後に

現代社会で求められていることを簡潔に述べるならば**「自分で考え、他者と協働しながら課題を解決していく力」**と言えるでしょう。情報を読み取りまとめる能力やテキストと自分の経験を結びつけて意見を述べたり書いたりする能力など、それらには国語力が深く関係します。そしてまた、他者と協働するためには、話す・聞く（＝コミュニケートする）ことが必要であり、これにも国語力が深く関係します。授業を聞いて「覚える」だけではなく、自分の頭で**「考え」**、積極的に他者と**「協働する」**という、**主体的な姿勢**を絶えず意識して本物の国語力を身につけていきましょう。

国語（現代の国語）学習目標・学習方法（学習内容は後掲のシラバスを参照すること）

１　学習目標

〇　主に論理的な文章にかかる学習目標

（１）文章の構造や語句の意味、表現の仕方などを理解する。

（２）資料から必要な情報を選択したり、主題や要旨を読み取ったりして、文章の内容を自分の言葉でまとめる力を身につける。

（３）論理の構成や展開を工夫し、自分の考えを文章にまとめ、自己評価や相互評価を通して、自分の表現力をより豊かにする。

〇　主に文学的な文章にかかる学習目標

（１）文章の構造や語句の意味、表現の仕方などを理解する。

（２）人物の特徴や心情、書き手の意図などを捉え、文章全体の内容を把握して自分の言葉でまとめる力を身につける。

（３）文章や他者との交流を通して新たな考え方、自分とは異なる意見などと出会い、自分の考えを発展・深化させ、心を豊かにする。

４　学習方法

予習 スキマ時間を有効活用！	・漢字テストの対策として漢字練習をする。 ・教科書の本文を一読して、語句の意味調べを行う。
授業 自分の頭で考えることが大切！ 周りの人と話し合うことも自分の力になる！	・まずは教科書の本文を読んで･･･ 注目すべき表現をマークする。 筆者の主張（評論）、心情描写（小説）に線を引く。 ・本文の重要表現や要旨、主題を確認していく。 ・様々な問いや活動に積極的に取り組む。

復習 振り返ることで、知識・理解が定着！	・注目すべき表現を確認しながら教科書の本文を読み、要旨や主題を確認し、自分の言葉でまとめる。
課題 自分の力で取り組み、応用力を身につけよう！	・定期的に出された課題に自分の力で取り組む。（答えを写すのではなく自分で考えて解く。） ・答え合わせの際には解説をよく読み、解き方の方法や考え方を理解する。 ・提出期限までに必ず提出する。

5　その他

・「表現」の学習については、授業の進度を考慮しながら小論文の指導と合わせて行う。
・毎授業「漢字練習用テキスト」を用いて小テストを行う。
・「現代文問題集」を定期的に提出、評価対象とする。考査と課題テストの範囲に入る。

国語（言語文化）学習目標・学習方法（内容は後掲のシラバスを参照すること）

1　学習目標

○　主に文学的な文章にかかる学習目標

（1）文章の構造や語句の意味、表現の仕方などを理解する。
（2）文章や他者との交流を通して新たな考え方、自分とは異なる意見などと出会い、自分の考えを発展・深化させ、心を豊かにする。

○　主に古文にかかる学習目標

（1）表現の特色を読み味わいつつ、古文への関心を深める。
（2）語句の意味や文法事項を理解し、作品の要旨や内容を読み取る力を身につける。
（3）古文に描かれた人物や情景、心情などについて感じたことや考えたことを文章にまとめたり、話し合ったりすることで、ものの見方や感じ方、考え方を豊かにする。

○　主に漢文にかかる学習目標

（1）漢文特有のリズムや表現の特色を読み味わい、漢文への関心を深める。
（2）語句の意味や文法事項を理解し、作品の要旨や内容を読み取る力を身につける。
（3）漢文に描かれた思想や感情、考え方などについて感じたことや考えたことを文章にまとめたり、話し合ったりすることで、ものの見方や感じ方、考え方を豊かにする。

4　学習方法

予習 自分の力でやることで、語句の意味や文法事項・現代語訳の仕方が身につく！ スキマ時間を有効活用！	・小テスト対策として古文単語を覚える。 ・本文を読み、わからない語句の意味や文法事項を調べる。 ・古典では、本文に文法事項を書き込み、現代語訳を書く。わからない所には（　）をつけて空けておく。 ・漢文では、本文を元に書き下し文を書き、現代語訳を書く。わからない所には（　）をつけて空けておく。
授業 周りの人と話し合うことも自分の力になる！	・語句の意味や文法・句形事項を確認し、覚えつつ、現代語訳を行う。 ・内容を確認しながら、情景や登場人物の心情を考える。 ・様々な問いや活動に積極的に取り組む。
復習 口に出したり、書いたりして何度も復習しよう！	・小テストで覚えていなかった古文単語を覚え直す。 ・語句の意味や文法・句形事項を確認して覚え直したり、演習問題に取り組んだりする。

課題 自分の力で取り組み、応用力を身につけよう！	・定期的に出された課題に自分の力で取り組む。 ・答え合わせの際には解説をよく読み、考え方や文法事項などを理解する。 ・提出期限までに必ず提出する。

5　その他

・毎授業「古文単語学習テキスト」を用いて小テストを行う。

・古文・漢文の「問題集」を定期的に提出、評価対象とする。考査と課題テストの範囲に入る。

令和５年度シラバス【国語】

長野県伊那北高等学校

科目	現代の国語	単位数	2	授業時間 ［総時間］	５５分 ［６４回］	学年	1	普通科 理数科
使用教科書	高等学校現代の国語 （第一学習社）	副教材等		・大学入試に出た核心漢字2500＋語彙1000（尚文出版） ・その他問題集				
学習の目標	・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。							
具体的な取り組み・指導上の注意点	・漢字力・語彙力の向上に努めること。辞書を引く習慣をつけること。 ・文章の読み方や問題への対処法について確実に身につけること。復習が重要である。 ・書いたり話したりすることで、表現しようとする姿勢が重要である。 ・主体的・積極的に取り組む姿勢が重要である。受動的ではいけない。							

月	単元名	学習内容・目標	知技	思判表	主体的	時数
4	①文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握しよう	別表参照				
5	②文章を読み、自分の意見や考えを論述する方法を学ぼう					
6	③調べた事柄を整理してまとめ、自分の考えや事柄を的確に伝えよう					
	第１回テスト					
7・8	④具体と抽象の関係を整理して、論理構成を把握しよう					
9	⑤筆者が自説を述べるための論の進め方を捉えよう					
	第２回テスト					
10	⑥複数の文章や図表等を読み理解しよう					
11	⑦調べたことを整理して説明資料にまとめよう					
12	⑧調べたことをまとめて発表しよう					
	第３回テスト					
1	⑨具体事例から一般論への展開を整理しながら評論を読もう					
2	⑩社会に対して意見文を書こう					
	第４回テスト					

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。	論理的思考力や想像力、創造力を養い、社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉の持つ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	定期考査、課題テスト、小テスト等を総合的に判断し評価。	定期考査、課題テスト、課題プリントや授業への取り組み等を総合的に判断し評価。	課題等の提出、課題プリントや授業への取り組み等を総合的判断し評価。

現代の国語　別表

			月	4	5	6	7・8	9	10	11	12	1	2
			単元	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
領域	A：話す・聞く20～30 B：書く30～40 C:読む10～20			C	B	B	A	A	B	A	B	C	B
指導事項			指導時数	6	7	7	6	7	6	7	5	6	5
知識・技能	言葉（1）の特徴や使い方	ア　言葉には，認識や思考を支える働きがあることを理解すること。		○			○						○
		イ　話し言葉と書き言葉の特徴や役割，表現の特色を踏まえ，正確さ，分かりやすさ，適切さ，敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し，使うこと。			○	○				○			
		ウ　常用漢字の読みに慣れ，主な常用漢字を書き，文や文章の中で使うこと。								○		○	○
		エ　実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに，語句や語彙の構造や特色，用法及び表記の仕方などを理解し，話や文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにすること。		○		○					○		○
		オ　文，話，文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。		○	○			○					
		カ　比喩，例示，言い換えなどの修辞や，直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。								○			
	情報（2）の扱い方	ア　主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。						○					
		イ　個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。					○						
		ウ　推論の仕方を理解し使うこと。						○					
		エ　情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。							○				
		オ　引用の仕方や出典の示し方，それらの必要性について理解を深め使うこと。							○		○		
	文化が我（3）国の言語	ア　実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めること。								○			○
思考力・判断力・表現力	話す・聞くA	ア　目的や場に応じて，実社会の中から適切な話題を決め，様々な観点から情報を収集，整理して，伝え合う内容を検討すること。						○					
		イ　自分の考えが的確に伝わるよう，自分の立場や考えを明確にするとともに，相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど，話の構成や展開を工夫すること。				○	○			○			
		ウ　話し言葉の特徴を踏まえて話したり，場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど，相手の理解が得られるように表現を工夫すること。					○						
		エ　論理の展開を予想しながら聞き，話の内容や構成，論理の展開，表現の仕方を評価するとともに，聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。					○						
		オ　論点を共有し，考えを広げたり深めたりしながら，話合いの目的，種類，状況に応じて，表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。										○	
	書くB	ア　目的や意図に応じて，実社会の中から適切な題材を決め，集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して，伝えたいことを明確にすること。									○		○
		イ　読み手の理解が得られるよう，論理の展開，情報の分量や重要度などを考えて，文章の構成や展開を工夫すること。			○	○							○
		ウ　自分の考えや事柄が的確に伝わるよう，根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに，文章の種類や，文体，語句などの表現の仕方を工夫すること。			○	○				○			○
		エ　目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて，文章全体を整えたり，読み手からの助言などを踏まえて，自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。								○			○
	読むC	ア　文章の種類を踏まえて，内容や構成，論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え，要旨や要点を把握すること。		○				○	○			○	
		イ　目的に応じて，文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら，内容や書き手の意図を解釈したり，文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに，自分の考えを深めること。							○			○	
			教材	「生きもの」として生きる	水の東西・「間」の感覚	羅生門	ものとことば	フェアな競争	法律の改正に関わる文章を読み比べる	鏡	日本の労働問題に関わる資料を読み比べる	ロビンソン的人間と自然	書き方の基礎を・社会に対するレッスン文を書く意見

令和５年度シラバス【国語】

長野県伊那北高等学校

科目	言語文化	単位数	2	授業時間［総時間］	５５分　［６４回］	学年	1	普通科 理数科
使用教科書	高等学校言語文化 （第一学習社）	副教材等		・読んで見て覚える重要古文単語３１５（桐原書店） ・精説漢文改訂版（いいずな書店） ・新修古典文法二訂版（京都書房）その他問題集				
学習の目標	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・ 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・ 言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。							
具体的な取り組み・指導上の注意点	・古文単語・古典文法・漢文句法の力の向上に努めること。辞書を引く習慣をつけること。 ・文章の読み方や問題への対処法について確実に身につけること。復習が重要である。 ・書いたり話したりすることで、表現しようとする姿勢が重要である。 ・主体的・積極的に取り組む姿勢が重要である。受動的ではいけない。							

月	単元名	学習内容・目標	知技	思判表	主体的	時数
4 5 6	①古典の文章に慣れよう（歴史的仮名遣い、品詞の種類と動詞の活用） ②訓読のきまりを理解しよう（返り点の種類と用法） ③古文独特の世界観に慣れよう（形容詞の活用） 第１回考査	別表参照				
7・8 9	④和歌が果たす役割をおさえ、歌物語の特徴を知ろう（用言の活用） ⑤漢文の訓読に慣れ、故事成語を知ろう・故事成語について発表しよう 第２回考査					
10 11 12	⑥随筆から作品に表れているものの見方や考え方を捉えよう（助動詞） ⑦史伝の時代背景を知り、登場人物の言動や込められた意図を読み取ろう ⑧詩独特の表現技法や構成などを理解しよう 第３回考査					
1 2	⑨話の展開に注目して、登場人物の感じ方や生き方などを読み取ろう ⑩漢詩のきまりを理解し、自然や人事に向けた思いを読み取ろう（形式・押韻・対句） 第４回テスト					

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に対する理解を深めようとしている。	論理的思考力や想像力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉の持つ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	定期考査、課題テスト、小テスト等を総合的に判断し評価。	定期考査、課題テスト、課題プリントや授業への取り組み等を総合的に判断し評価。	課題等の提出、課題プリントや授業への取り組み等を総合的判断し評価。

言語文化　別表

			月	4	5	6	7・8	9	10	11	12	1	2
			単元	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
指導事項			指導時数	6	7	7	7	6	6	6	7	6	6
知識・技能	言葉の特徴や使い方（1）	ア　言葉には，認識や思考を支える働きがあることを理解すること。		○			○						
		イ　話し言葉と書き言葉の特徴や役割，表現の特色を踏まえ，正確さ，分かりやすさ，適切さ，敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し，使うこと。					○						
		ウ　常用漢字の読みに慣れ，主な常用漢字を書き，文や文章の中で使うこと。		○		○				○			
		エ　エ　文章の意味は，文脈の中で形成されることを理解すること。											
		オ　文，話，文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。										○	
		オ　本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解すること。									○		
	我が国の言語文化に対する事項（2）	ア　我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。											
		イ　古典の世界に親しむために，作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること。			○			○		○			○
		ウ　古典の世界に親しむために，古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり，古典特有の表現などについて理解すること。					○		○			○	
		エ時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め，古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解すること。		○	○	○	○						○
		オ　言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めること。		○								○	
		カ　我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めること。									○		
思考力・判断力・表現力	書くこと B	ア　自分の知識や体験の中から適切な題材を決め，集めた材料のよさや味わいを吟味して，表現したいことを明確にすること。				○					○		
		イ　自分の体験や思いが効果的に伝わるよう，文章の種類，構成，展開や，文体，描写，語句などの表現の仕方を工夫すること。						○			○		
	読むこと C	ア　文章の種類を踏まえて，内容や構成，展開などについて叙述を基に的確に捉えること。					○			○			
		イ　作品や文章に表れているものの見方，感じ方，考え方を捉え，内容を解釈すること。				○			○			○	
		ウ　文章の構成や展開，表現の仕方，表現の特色について評価すること。				○					○		○
		エ　作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ，内容の解釈を深めること。					○		○	○			
		オ　作品の内容や解釈を踏まえ，自分のものの見方，感じ方，考え方を深め，我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。		○	○						○		
			教材	古文の学習 絵仏師良秀	漢文の学習 訓読に親しむ	なよ竹のかぐや姫	芥川	漁夫の利 蛇足	丹波に出雲といふ所あり	臥薪嘗胆	一つのメルヘン 甃のうへ詩歌等	筒井筒	江南春・静夜思・春望

言語文化　別表

			月	4	5	6	7・8	9	10	11	12	1	2
			単元	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
指導事項			指導時数	6	7	7	7	6	6	6	7	6	6
知識・技能	言葉の特徴や使い方（1）	ア　言葉には，認識や思考を支える働きがあることを理解すること。		○			○						
		イ　話し言葉と書き言葉の特徴や役割，表現の特色を踏まえ，正確さ，分かりやすさ，適切さ，敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し，使うこと。					○						
		ウ　常用漢字の読みに慣れ，主な常用漢字を書き，文や文章の中で使うこと。		○		○				○			
		エ　エ　文章の意味は，文脈の中で形成されることを理解すること。											
		オ　文，話，文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。										○	
		オ　本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解すること。									○		
	我が国の言語文化に対する事項（2）	ア　我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。											
		イ　古典の世界に親しむために，作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること。			○			○		○			○
		ウ　古典の世界に親しむために，古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり，古典特有の表現などについて理解すること。					○		○			○	
		エ時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め，古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解すること。		○	○	○	○						○
		オ　言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めること。		○								○	
		カ　我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めること。									○		
思考力・判断力・表現力	書くこと B	ア　自分の知識や体験の中から適切な題材を決め，集めた材料のよさや味わいを吟味して，表現したいことを明確にすること。				○					○		
		イ　自分の体験や思いが効果的に伝わるよう，文章の種類，構成，展開や，文体，描写，語句などの表現の仕方を工夫すること。						○			○		
	読むこと C	ア　文章の種類を踏まえて，内容や構成，展開などについて叙述を基に的確に捉えること。					○			○			
		イ　作品や文章に表れているものの見方，感じ方，考え方を捉え，内容を解釈すること。				○			○			○	
		ウ　文章の構成や展開，表現の仕方，表現の特色について評価すること。				○					○		○
		エ　作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ，内容の解釈を深めること。					○		○	○			
		オ　作品の内容や解釈を踏まえ，自分のものの見方，感じ方，考え方を深め，我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。		○	○						○		
			教材	古文の学習 絵仏師良秀	漢文の学習 訓読に親しむ	なよ竹のかぐや姫	芥川	漁夫の利 蛇足	丹波に出雲といふ所あり	臥薪嘗胆	一つのメルヘン 甃のうへ詩歌等	筒井筒	江南春・静夜思・春望

令和５年度シラバス【地理総合】

長野県伊那北高等学校

科目	地理総合	単位数	2	授業時間［総時数］	５５分［６４回］	学年	1	学科	普通科理数科
使用教科書	高等学校新地理総合（帝国書院）	副教材等		新編地理資料 2023（とうほう） 地理総合演習ノート（啓隆社）					
学習の目標	地理に関わる諸事象に関して、位置や分布、場所などに着目した特色や相互の関連、防災、地域や地球的課題への取組等を理解する。また、地図や地理情報システム等を用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、それらを基に地理的な課題の解決に向けて多面的・多角的に考察し、説明することができる力を養う。								
具体的な取り組み	現代世界の地理的事象に対する関心と問題意識を高め、課題解決の方向性について考察する。 地図や地理情報システム等を用いて、情報の収集、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6	1.位置と時差 2.地図 3 国家の領域 4.グローバル化	地図や地理情報システム等の活用を通して、現代世界の地理構成に着目し、国内や国家間の結びつきなどを多面的・多角的に考察・表現できる。	(1)世界各地の季節変化や時差等を、経緯度との関係で捉える。(2)地図の種類や表現の特徴を理解し、用途に応じた役割を考察する。(3)国家の位置と領域について理解し、領土問題の背景と解決方法を考察する。(4)統計等を用いてグローバルな結びつきの変化を捉える。	地理情報システム（ＧＩＳ）の活用や、統計資料の読み取り、説明する機会を設ける。	１５
第１回考査					1
6 7 8 9	5.地形と生活 6.気候と生活	生活文化と自然及び社会的条件との関わりに着目し、多様性や変容の要因を多面的・多角的に考察・表現できる。	(5)山地や河川、海岸の地形の特徴を理解し、その利用等が自然的･人為的要因で変化していることを捉える。(6)各気候区における気候要素の特徴の違いと、それが生活や文化に与える影響を考察する。	写真や模式図、また地図や雨温図を読み取り、説明する機会を設ける。	１５
第２回考査					1
9 10 11	7.気候と生活 8.自然環境と防災	防災と自然及び社会的条件との関わりに着目し、自然災害への備えや対応等を多面的・多角的に考察・表現できる。	(7) 各気候区における気候要素の特徴の違いと、それが生活や文化に与える影響を考察する。(8)自然災害が発生するメカニズムを理解し、被害軽減に向けた取り組みを具体的に考察する。	写真や模式図、ハザードマップを活用し、災害時にとるべき行動について考察する機会を設ける。	１５
第３回考査					1
12 1 2	9.地球的課題と国際協力	地球的課題の背景や解決に向けた方向性について、多面的･多角的に考察・表現できる。	(9)地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性を理解し、持続可能な地球にするための解決法を具体的に考察する。	主題図や統計、グラフを読み取り、課題について把握する機会を設ける。	15
第４回考査					1

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組み等を理解している。	地理に関わる概念の活用や、地図や地理情報システム等を用いた様々な情報の収集を行い、地理的な課題の多面的・多角的な考察を行うことができる。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。
評価方法	４回考査で基礎的・応用的な問題を課し知識・技能の定着を見定める。	授業内での考察への取り組みや、その内容から判断する。	グループ学習、質疑応答、質問などで主体的に取り組む態度から判断する。

令和５年度シラバス【　歴史総合　】

長野県伊那北高等学校

科目	歴史総合	単位数	2	授業時間 [総時数]	５５分 [６４回]	学年	1	学科	普通科
使用教科書	明解歴史総合 （帝国書院）	副教材等		明解歴史総合図説シンフォニア（帝国書院） 明解歴史総合ノート（帝国書院） ウィニングコンパス（とうほう）					
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。								
具体的な取り組み 指導上の注意点	・日本と世界の歩みを探り、自国史と世界史を一体として、歴史を理解する。 ・現在の世界の課題を見出し，歴史過程からその解決への手がかりを探る。 ・図版，資料を活用し近現代を中心とした歴史への理解を深める。 ・定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5	２部１章 江戸時代の日本と結びつく世界 ２章 欧米諸国における近代化	・18 世紀の日本やアジア、ヨーロッパの結びつきや、欧米での革命が社会にもたらした変化について理解させる。 ・諸資料を活用し、課題の追究や、解決に向けた活動を行う。	１節　アジアの中の江戸幕府 ２節　成熟する江戸社会 ３節　清の繁栄と結び付く東アジア ４節　アジア・アメリカに向かうヨーロッパ １節　イギリスの革命とアメリカの独立 ２節　フランス革命 　～ヨーロッパ近代の幕開け ３節　フランス革命の影響と国民意識の芽生え ４節　産業革命で変わる社会 ５節　イギリスの繁栄と国際分業体制	教科書や資料集の図やデータを確認しながら、理解を深める。 グループでの意見交換や調べ学習を行う。	14
第１回考査					1
6 7 8 9	３章 近代化の進展と国民国家形成 ４章 アジア諸国の動揺と日本の開国 ５章 近代化が進む	・欧米での革命を踏まえ、国民国家の形成やナショナリズム、産業革命について理解させる。 ・列強のアジア進出の影響や、その後の国際情勢を理解させる。	１節　1848 年～近代ヨーロッパの転換点 ２節　イタリア・ドイツの統一とロシアの近代化 ３節　アメリカの拡大と第２次産業革命 ４節　帝国主義と世界の一体化 １節　「西洋の衝撃」と西アジアの変化 ２節　南・東南アジアの植民地化 ３節　ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争 ４節　黒船の来航と日本の対応 ５節　新体制の模索と江戸幕府の滅亡 １節　新政府の誕生 ２節　近代国家を目指す日本	教科書や資料集の図やデータを確認しながら、理解を深める。 グループでの意見交換や調べ学習を行う。	15

	日本と東アジア		3節　日本と清の近代化と日清戦争 4節　列強の中国進出と日露戦争 5節　日露戦争が与えた影響		
第2回考査					1
9 10 11	3部1章 第一次世界大戦と日本の反応 2章 国際協調と大衆社会の広がり 3章 日本の行方と第二次世界大戦	・第一次世界大戦が世界にもたらした影響と、日本を含む各国の、その後の反応や、影響について理解する。 ・帝国主義が世界を席巻していく様相と、世界恐慌やファシズムの影響などについて理解する。	1節　ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張 2節　総力戦となった第一次世界大戦 3節　ロシア革命と大戦の終結 1節　ヴェルサイユ体制の成立 2節　東アジアの民族自決の行方 3節　中東・インドの民族自決の影響 4節　ヨーロッパの復興と大衆の政治参加 5節　大衆社会の出現とアメリカの繁栄 6節　日本における大衆社会の形成 1節　世界恐慌が与えた影響 2節　ファシズムの台頭と拡大 3節　政党政治の断絶と満州事変 4節　日中戦争の始まり 5節　第二次世界大戦の展開 6節　戦局の悪化と被害の拡大 7節　第二次世界大戦の終結とその惨禍	教科書や資料集の図やデータを確認しながら、理解を深める。 グループでの意見交換や調べ学習を行う。	16
第3回考査					1
12 1 2	4章 再出発する世界と日本 4部1章 冷戦で揺れる世界と日本 2章 多極化する世界 3章 グローバル化のなかの世界と日本	・戦後の現代の世界情勢や国際秩序の形成と日本の復帰などを俯瞰的に理解させる。 ・冷戦構造下における世界の緊張や、高度情報通信、食料や人口問題など、現代社会を取り巻く諸課題について理解・考察させる。	1節　戦後の新たな国際秩序 2節　冷戦の始まり 3節　日本撤退後の東アジア 4節　日本の改革と独立の回復 1節　アメリカ・ソ連の緊張と緩和 2節　冷戦下における日本の復興 3節　第三勢力の形成と脱植民地化 4節　中東戦争とパレスチナ問題 1節　揺らぐアメリカと先進各国の変化 2節　「経済大国」日本の模索 3節　経済発展に取り組むアジア・南米諸国 4節　イスラーム復興と冷戦への影響 1節　冷戦の終結と変わる世界構造 2節　冷戦の終結が与えた世界への影響 3節　超大国アメリカと中東情勢 4節　国際環境の変化と日本 5節　グローバル化による国際社会の変容	教科書や資料集の図やデータを確認しながら、理解を深める。 グループでの意見交換や調べ学習を行う。	15
第4回考査					1

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	近現代の世界の歴史の展開に関わる諸事象について，地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	近現代の世界の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	近現代の世界の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価方法	４回の考査で基礎的・応用的な問題を課し、知識･技能の定着と発展性を見定める。	授業内での考察への取り組みや、その内容から判断する。	グループ学習・質疑応答・事後の質問などで主体的に取り組む態度から判断する。

数　学

スマホをはじめとする電気機器のおかげで手間が省けて便利になったり、天気予報や地震予測がより正確にされることが私たちの安全・安心な暮らしに繋がっていますが、その背景では数学が多用されています。

私たちの生活を支えているともいえる数学について、高校数学で学習する内容はほんの一部でしかありませんがとても大切で基礎となる部分です。学習する事柄がどれだけ私たちの生活につながっているのか想像しづらいこともありますが、科学の基盤となる数学を学習することはとても意味があることでしょう。

また、みなさんが社会に出たときに様々な問題や課題に対して、筋道を立てて解決に導く力はいろいろな場面で必要とされます。そんな力を数学を学習する中で身につけていきましょう。

（１）　学習の心構え

学習以外にもいえることですが、何事にも時間や手間をかけないとできるようになったり、うまくなったりはしません。基本から始めて着実に丁寧に正しく積み重ねていけば必ず力がつきます。すぐに結果や点数に結びつくことはほとんどありません。継続的に学習することが一番の近道です。

自力でじっくり考えることが大切です。ひとつの問いに対して「こうやればうまくいきそうだな」「この道筋でやってもだめだから違うやり方でやってみよう」　とかが大切です。最終的に自力ではわからなかったとしてもその過程で「今自分が知っていることをフル活用していろいろ考えてみた」ということは必ず自分の力になります。時間には限りがありますが、自力で考えることを大事にしてください。

学習したことについて問題演習（レベルが高い問題も含めて）を積極的に行い、アウトプットの量を増やしましょう。一つの問いに対して答えに行きつくまでの道のり一つとは限りません。いろいろな道のり、いろいろな角度から考えることもとても大切です。問題演習をする際は、答えがあっていた場合でも別解があればそれも理解しましょう。考え方の武器が増えます。また互いに教え合う、考え合うことで自分では気づかなかった道筋や考え方が発見でき一人で学習するより互いの力を高めます。

（２）　学習の方法

毎日の授業を大切にし、家庭学習を継続して下さい。授業は思った以上に早く進みますので予習をする習慣をつけるとよいでしょう。例えば、教科書をざっと読み、例や例題をノートに書きながら自分なりに理解し完璧でなくていいので、練習問題に取り組んでみてください。予習で理解できなかったところは授業で特に集中して聞いてください。その日に学習したことは必ず復習をし、内容の理解を確かなものとし問題演習を行いましょう。復習をすることで確実に定着します。数学が苦手だと感じる人は特に復習をきちんと行うとよいでしょう。疑問点や理解できない部分は放置せずに先生に質問をしましょう。

授業中や問題演習をする際のノートの使い方ですが、できるだけゆとりをもって説明や解答を書くようにしましょう。図やグラフを大きくことも大事ですし、後々自分で書き込みができるようにしておきましょう。また、授業用ノート、個人でやる演習ノート、テストや模試の間違い集約ノートなど用途に分けてノートを用意するとよいでしょう。

（３）　教材の使い方

・教科書・・・一番基本となるものです。書かれていることを丁寧に読みましょう。行間が省略されている場合は、省略部分を読み取ることも大切です。公式、例題、練習以外のところもきちんと理解することを意識してください。

・問題集（クリアー・4STEP）・・・基本問題、応用問題の演習を繰り返し行います。土台作りのためにその日学習した部分は毎日やり、継続して繰り返し取り組んで下さい。定期的に提出してもらいます。

・チャート・・・問題の解法を確認、理解する。授業では扱わないが、大学入試では重要となる問題が多く掲載されています。例題を理解したあと練習問題に自力で取り組んでみましょう。発展的な内容もあるので積極的に目を通しましょう。

（４）　成績の評価方法

定期考査の点数，Weeklyテストの点数，提出物の内容と提出状況，出欠状況

普通科【数学Ⅰ】

科目	数学Ⅰ	単位数	3	授業時間[総時数]	55 分[96 回]	学年	1	学科	普通科
使用教科書	高等学校数学Ⅰ	副教材等		（問題集）クリアー数学Ⅰ+A （参考書）チャート式　基礎からの数学　数学Ⅰ+A					
学習の目標	数と式、図形と計量、２次関数及びデータの分析について学習し、中学校までに養われた数学的に考える資質・能力を一層伸長させる。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・定期考査、ウィークリーテストなどを通して理解の度合いを判断するとともに、解き直しを通して定着をはかると同時に別解などにふれることで理解を深める。 ・課題を通して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6	数と式 集合と命題 ２次関数	計算力を身に着け，数の体系を理解する。 集合と命題の概念を理解し，活用する。 ２次関数とそのグラフを活用する。	式の計算，実数，１次不等式 集合と命題 ２次関数とグラフ，値の変化， ２次方程式		18 8 13
第１回考査					1
6 7 8 9	２次関数		２次不等式 【数学 A】実施		8
第２回考査					1
9 10 11	図形と計量	三角比の性質を理解し，活用する。	【数学 A】実施 三角比，三角形への応用		19
第３回考査					1
12 1 2	データの分析 数学Ⅱ	データの整理と分析・仮説検定。	データの分析 下記　【数学Ⅱ】参照		9 (10) (9)
第４回考査					1
3					

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	数と式、２次関数、図形と計量とデータの分析における基本的な概念、原理、法則などを体系的に理解し、事象の数学化・数学的解釈・数学的表現や処理をする技能を身に付けている。	数や式を多面的にみたり目的に応じて変形する力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、事象を的確に表現してその特徴を表・式・グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、適切な手法を用いて分析し	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。

		て解決、またその過程を考察する力を身につけている。	
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)	課題レポート 定期考査、他テスト	提出物（プリント、ノート） 課題レポート・発言・質問

普通科【数学 A】

科目	数学Ａ	単位数	2	授業時間[総時数]	55 分[64 回]	学年	1	学科	普通科
使用教科書	高等学校数学Ａ	副教材等		（問題集）クリアー数学Ｉ+A （参考書）チャート式　基礎からの数学　数学Ｉ+A					
学習の目標	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質（数学と人間の活動の中の一分野）について学習し、「数学Ｉ」の内容などを補完するとともに、事象を数学的に考える資質・能力を養い、数学のよさを認識できるようにする。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・定期考査、ウィークリーテストなどを通して理解の度合いを判断するとともに、解き直しを通して定着をはかると同時に別解などにふれることで理解を深める。 ・課題を通して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6			6 月まで【数学Ｉ】を学習		
第 1 回考査					1
6 7 8 9	場合の数と確率 図形の性質	規則的な数え方と確率を理解し，活用する。 平面図形の性質を理解し，活用する。	場合の数，確率、条件付き確率、期待値 平面図形		22 11
第 2 回考査					1
9 10 11	図形の性質 整数の性質	空間図形の性質を理解し，活用する。 整数の性質を理解し，活用する。	空間図形 約数と倍数，互除法，活用 12 月まで【数学Ｉ】を学習		5 15
第 3 回考査					1
12 1 2			下記【数学Ⅱ】を参照		
第 4 回考査					(1)

3					(9)
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	場合の数と確率、図形の性質、整数の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に付けている。	確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、図形の性質を見いだし論理的に考察する力、整数のもつ性質を理解し数理的に考察する力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。		
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)	課題レポート 定期考査、他テスト	提出物（プリント、ノート） 課題レポート・発言・質問		

普通科【数学Ⅱ】……数学Ⅰの中で実施

科目	数学Ⅱ	単位数		授業時間[総時数]	55 分[32 回]	学年	1	学科	普通科
使用教科書	高等学校数学Ⅱ	副教材等		（問題集）クリアー数学Ⅱ+B （参考書）チャート式　基礎からの数学　数学Ⅱ+B					
学習の目標	高等学校数学の根幹をなす、「いろいろな式」、「図形と方程式」、「指数関数・対数関数」、「三角関数及び微分・積分の考え」という 5 つの内容はについて学習し、「数学Ⅰ」の内容を発展、拡充させるとともに、「数学Ⅲ」を学習する（選択する場合）の基礎づくりを行う。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・定期考査、ウィークリーテストなどを通して理解の度合いを判断するとともに、解き直しを通して定着をはかると同時に別解などにふれることで理解を深める。 ・課題を通して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。								
月	単元名	指導目標		学習内容		備考			時数
4 5 6				12 月まで【数学Ⅰ】【数学 A】を学習					
第 1 回考査									
6 ～ 9									
第 2 回考査									
9 10 11									
第 3 回考査									
12 1 2	式と証明 複素数と方程式	整式，分数式の計算の理解と証明する。		式と計算，等式・不等式の証明 複素数，２次方程式の解，剰余の定理・					10 9

		数の範囲を複素数まで拡張して活用する。	因数定理，高次方程式		
第４回考査					1
3	図形と方程式	直線や円の式を理解し，活用できるようにする。	点と直線		7

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	いろいろな式、図形と方程式についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に付けている。	等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察する力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)	課題レポート 定期考査、他テスト	提出物（プリント、ノート） 課題レポート・発言・質問

理数科【理数数学Ⅰ】

科目	理数数学Ⅰ	単位数	4	授業時間[総時数]	55 分[128 回]	学年	1	学科	理数科
使用教科書	高等学校数学Ⅰ，A	副教材等		（問題集）4STEP　数学Ⅰ+A （参考書）チャート式　基礎からの　数学Ⅰ+A					
学習の目標	事象を数学的に考察し表現する基礎的な能力を養い、知識や技能などを的確に活用する姿勢を身に付ける。また、「理数数学Ⅱ」、「理数数学特論」への基礎を築く。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・定期考査、ウィークリーテストなどを通して理解の度合いを判断するとともに、解き直しを通して定着をはかると同時に別解などにふれることで理解を深める。 ・課題を通して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4	数と式	計算力を身に着け，数の体系を理解する。	式の計算，実数，１次不等式		15
5	集合と命題	集合と命題の概念を理解し，活用する。	集合と命題		10
6	２次関数	２次関数とそのグラフを活用する。	２次関数とグラフ，分数関数、無理関数 値の変化，２次方程式		14
第１回考査					2

6 7 8 9	２次関数 場合の数と確率 図形の性質	規則的な数え方と確率を理解し，活用する。 平面図形の性質を理解し，活用する。	２次不等式 場合の数，確率、条件付き確率、期待値 平面図形		8 18 11
第２回考査					2
9 10 11	図形の性質 整数の性質 図形と計量	空間図形の性質を理解し，活用する。 整数の性質を理解し，活用する。 三角比の性質を理解し，活用する。	空間図形 約数と倍数，互除法，活用 三角比，応用		6 14 18
第３回考査					2
12 1 2	データの分析	データの整理と分析をする。	データの分析 【理数数学Ⅱ】へ		8
第４回考査					
3					

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	数学における基本的な概念や原理･法則を系統的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に付けている。	事象を数学的に捉え、論理的･統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、事象を数学的に探求しようとしている。
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)	課題レポート 定期考査、他テスト	提出物（プリント、ノート） 課題レポート・発言・質問

理数科【理数数学Ⅱ】

科目	理数数学Ⅰ	単位数	1	授業時間 [総時数]	55 分[32 回]	学年	1	学科	理数科
使用教科書	高等学校数学Ⅱ	副教材等		（問題集）4STEP　数学Ⅰ+A （参考書）チャート式　基礎からの　数学Ⅰ+A					
学習の目標	事象を数学的に考察し表現する基礎的な能力を養い、知識や技能などを的確に活用する姿勢を身に付ける。また、「理数数学特論」への基礎を築く。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・定期考査、ウィークリーテストなどを通して理解の度合いを判断するとともに、解き直しを通して定着をはかると同時に別解などにふれることで理解を深める。 ・課題を通して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6			12 月まで【理数数学Ⅰ】を学習		
第 1 回考査					
6 ～ 9					
第 2 回考査					
9 10 11					
第 3 回考査					
12 1 2	式と証明 複素数と方程式	整式，分数式の計算の理解と証明する。 数の範囲を複素数まで拡張して活用する。	式と計算，等式・不等式の証明 複素数、２次方程式の解，剰余の定理、因数定理、高次方程式		12 12
第 4 回考査					2
3	図形と方程式	直線や円の式を理解し，活用できるようにする。	点と直線		6

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	数学における基本的な概念や原理･法則を系統的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に付けている。	事象を数学的に捉え、論理的･統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、事象を数学的に探求しようとしている。
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)	課題レポート 定期考査、他テスト	提出物（プリント、ノート） 課題レポート・発言・質問

理科（物理基礎・生物基礎・理数物理・理数生物）

高校の理科は物理・生物・化学・地学の４科目に分かれます。本校では１年次に普通科は物理基礎・生物基礎を学び、理数科は理数物理と理数生物を学習します。理数物理・理数生物はそれぞれ物理基礎と生物基礎の内容に加えて、発展的な内容も取り扱います。

授業では図説や問題集を利用しながら、物理・生物の基本的な概念や原理・法則の理解を深めます。また、自然科学への興味・関心を高め、科学的に探求する能力や態度を培うために実験・観察も重視しています。

○ 学習の到達目標

☆ 物理基礎・理数物理

１．講義、議論、実験などを通して物理的な事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解する

２．自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探求する能力と態度・科学的な自然観を育成する。

☆ 生物基礎・理数生物

１．生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。

２．生物や生命現象に関心を高め、観察や実験を行い、生物学的に探求する能力と態度を養う。

３．日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生命現象への関心を高める。

○ 物理基礎・理数物理の学習

物体の運動の法則とエネルギーとの関連を学びます。前半では、いろいろな運動の様子を一般化して表す方法を学びます。また、後半は物体が持つエネルギーとの関りを扱い前半で学んだ運動の様子との関りを考えます。

身近な生活の場面で起こる現象との関りが深い科目です。学んだ内容が関わる場面を関連付けながら学習してください。また、学習内容の定着のために問題演習にしっかりと取り組むように心がけてください。

○ 生物基礎の学習

生物の“共通性”である、代謝、遺伝子、恒常性について学びます。また、生物の“多様性”について、植物と生態系を題材に学習します。中学校と比べて、格段に詳しい内容を学ぶことになります。学ぶ内容をきちんと理解することを心がけて、積極的な姿勢で授業を受けてください。

テストに向けては、用語の丸暗記ではなく、教科書を読み、内容をよく理解した上で重要語句や基本事項を覚えるようにしてください。自分がどれだけ理解できたかは、問題集で確認してください。

○ 学習内容と進度　（普通科　生物基礎）

科目	生物基礎	単位数	2	授業時間 [総時数]	５５分 [６４回]	学年	1	学科	普通科
使用教科書	i版　生物基礎 （啓林館）	副教材等		センサー生物基礎（啓林館）など					
学習の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生命現象を科学的に探求するために必要な資質能力を身に着ける。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・日常生活や社会との連携を図りながら、生物や生物現象について理解する。 ・科学的に探求するために必要な観察・実験などに関する基礎的な技能を身につける。 ・観察、実験などを行う。 ・定期考査を利用して、学習の自己評価を行わせる。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6	生物の特徴 遺伝子とそのはたらき	生物の特徴について身に着ける。生物の共通性を見出す。生物多様性について身につける	・生物の共通性と多様性 ・細胞 ・代謝 ・DNA の構造と遺伝情報	負の指数は数学に関わる。 【実習】顕微鏡・ミクロメーターの使い方	１２
第１回考査					1
6 7 8 9	遺伝子とそのはたらき	遺伝子の構造とはたらきについて身につける。	・DNA の構造と遺伝情報 ・DNA の複製 ・遺伝情報の分配 ・遺伝情報の発現	【実験】唾腺染色体の観察	１２
第２回考査					1
9 10 11	ヒトの体の調節	体液のはたらき、神経とホルモンの働きの基本を身につける。	・恒常性と体液 ・腎臓と肝臓 ・自律神経とホルモン	【実験】心臓・腎臓・肺の観察	１６
第３回考査					1
12 1 2	ヒトの体の調節 植生と遷移	体内を一定に保つ働きを総合的に学ぶ。免疫の仕組みを理解する。	・恒常性の維持 ・免疫 ・植生と遷移	【実験】体細胞分裂	１６
第４回考査					1
3	生態系とその保全	生態系のしくみ、人間生活との関わりを理解する。	・生態系と人間生活 ・物質循環		4

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	自然の事物･現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに､科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	自然の事物・現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど､科学的に探求しようとしている。
評価方法	小テスト 実験レポート　定期考査	実験レポート 定期考査	発言・質問 実験レポート　定期考査

○ 学習内容と進度　（理数科　理数生物）

科目	理数生物	単位数	3	授業時間 [総時数]	５５分 [９６回]	学年	1	学科	理数科
使用教科書	i版　生物基礎 （啓林館）	副教材等		センサー生物基礎（啓林館）など					
学習の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生命現象を科学的に探求するために必要な資質能力を身に着ける。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・生物学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深め、科学的に探究するために必要な知識を身につける。 ・生物や生物現象に関して、観察・実験を行い、科学的に探究する力を養う。 ・自然に対する関心を高め、事物・現象を科学的に探究しようとする態度を養う。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6	生物の特徴 遺伝子とそのはたらき	生物の特徴について身に着ける。生物の共通性を見出す。生物多様性について身につける	・生物の共通性と多様性 ・細胞 ・代謝 ・DNA の構造と遺伝情報	負の指数は数学に関わる。 【実習】顕微鏡・ミクロメーターの使い方 【GW】生物学の研究を行うにあたって必要なことを学ぶ	18
第１回考査					1
6 7 8 9	遺伝子とそのはたらき	遺伝子の構造とはたらきについて身につける。	・DNA の構造と遺伝情報 ・DNA の複製 ・遺伝情報の分配 ・遺伝情報の発現	【実験】唾腺染色体の観察 【大学連携】大学教授や大学生と生物学の実験やミニ研究を行う	24
第２回考査					1
9 10 11	ヒトの体の調節	体液のはたらき、神経とホルモンの働きの基本を身につける。	・恒常性と体液 ・腎臓と肝臓 ・自律神経とホルモン	【実験】心臓・腎臓・肺の観察 【実験・実習】ニワトリ胚を使った生体内の観察と研究テーマ作成	20
第３回考査					1
12 1 2	ヒトの体の調節 植生と遷移	体内を一定に保つ働きを総合的に学ぶ。免疫の仕組みを理解する。	・恒常性の維持 ・免疫 ・植生と遷移	【実験】体細胞分裂 【実験・実習】細菌培養を用いて生体維持システムを考察する	24
第４回考査					1
3	生態系とその保全	生態系のしくみ、人間生活との関わりを理解する。	・生態系と人間生活 ・物質循環		6

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	自然の事物･現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	自然の事物・現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
評価方法	小テスト 実験レポート 定期考査	実験レポート 定期考査	発言・質問 実験レポート 実習の取り組み 定期考査

○ 学習内容と進度　（普通科　物理基礎）

科目	物理基礎	単位数	2	授業時間 ［総時数］	５５分 ［６４回］	学年	1	学科	普通科
使用 教科書	改訂版新編物理基礎 数研出版			副教材等	『フォローアップドリル物理基礎（運動の表し方・運動方程式)、（仕事とエネルギー・熱)、(波・電気)』(数研出版編集部) 『リードα物理基礎、物理』(数研出版編集部)				
学習の 目標	物理的な事物･現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに，物理学の基本的な概念や原理･法則の理解を深め，科学的な自然観を育成する。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	・日常生活や社会との連携を図りながら、物理的な現象について理解する。 ・物理的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に着ける。 ・観察、実験などを行う。 ・定期考査を利用して、学習の自己評価を行わせる。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考（実験等）	時数
4 5 6	第１編 運動とエネルギー 第１章 運動の表し方 第２章 運動の法則	◆日常に起こる物体の運動を観察，実験などを通して探究し，それらの基本的な概念や法則を理解し，運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身につける。◆身近な物理現象について，物理量の測定と表し方，分析の手法を理解する。	速さと速度、瞬間の速度 速度の合成・相対速度 加速度 等加速度直線運動、グラフ読取 落下、投射 力とそのはたらき 力のつりあい 運動の３法則	重力加速度の測定 運動の法則	15
第１回考査					1
6 7 8 9	第１編 第２章 運動の法則 第３章 仕事と 力学的エネルギー	◆日常に起こる物体の運動を観察，実験などを通して探究し，それらの基本的な概念や法則を理解し，運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身につける。	運動方程式 摩擦を受ける運動 圧力 空気抵抗 仕事、力学的エネルギー 力学的エネルギーの保存	力学的エネルギー	15
第２回考査					1
9 10 11	第２編 熱 第１章 熱と エネルギー 第３編　波 第１章 波の性質 第２章　音	◆熱に関する現象を観察，実験などを通して探究し，それらの基本的な概念や法則を理解し，熱についての基礎的な見方や考え方を身につける。◆波に関する現象を観察，実験などを通して探究し，それらの基本的な概念や法則を理解し，波についての基礎的な見方や考え方を身につける。	温度と熱 熱量 熱量保存 仕事と熱 波の性質、縦波と横波 定常波 音 共振と共鳴	熱量の保存 気柱の共鳴	15
第３回考査					1
12 1 2	第４編 電気 第１章 物質と電気 第２章 磁場と交流 第５編 物理学と社会 第１章 エネルギー利用	◆電気や磁気に関する現象を観察，実験などを通して探究し，それらの基本的な概念や法則を理解し，電気や磁気についての基礎的な見方や考え方を身につける。◆「物理基礎」で学んだ事柄が，日常生活やそれを支えている科学技術と結びついていることを理解する	電気の性質、帯電 電流と電気抵抗 電気とエネルギー ジュール熱 電力量と電力 電流と磁場 交流と電磁波 エネルギーの利用 エネルギー資源と発電 SDGｓ	オームの法則 手回し発電機	15
第４回考査					1
3					

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	自然の事物・現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
評価 方法	小テスト 実験レポート 定期考査	実験レポート 定期考査	発言・質問、出欠状況 実験レポート 定期考査

○ 学習内容と進度　（理数科　理数物理）

科目	理数物理	単位数	3	授業時間［総時数］	５５分［９６回］	学年	1	学科	理数科
使用教科書	改訂版新編物理基礎 数研出版		副教材等		『フォローアップドリル物理基礎（運動の表し方・運動方程式）、（仕事とエネルギー・熱）、（波・電気）』（数研出版編集部）『リードα物理基礎、物理』（数研出版編集部）				
学習の目標	物理的な事物･現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに，物理学の基本的な概念や原理･法則の理解を深め，科学的な自然観を育成する。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・日常生活や社会との連携を図りながら、物理的な現象について理解する。 ・物理的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に着ける。 ・観察、実験などを行う。 ・定期考査を利用して、学習の自己評価を行わせる。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考（実験等）	時数
4 5 6	第１編 運動とエネルギー 第１章 運動の表し方 探究 第２章 運動の法則 探究	日常に起こる物体の運動の概念や法則を理解し，運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身につける。 平均、分散など統計的手法 身近な物理現象について，物理量の測定と表し方，分析の手法を理解する。 グループワークで問いを立てる 問いを検証する実験を考案する 検証実験の結果をまとめる 探究の実験計画を作成する	速さと速度、瞬間の速度 速度の合成・相対速度、平面運動 加速度、等加速度直線運動 落下、投射、斜方投射 探究に必要な数学（統計）を学ぶ 力とそのはたらき、力のつりあい 運動の３法則 探究の基本を物理実験で学ぶ	重力加速度の測定 運動の法則	8 1 7 6
第１回考査					1
6 7 8 9	探求 第１編　第２章 運動の法則 探究 第３章　仕事と力学的エネルギー	探究の実験計画を作成する 日常に起こる物体の運動の基本的な概念や法則を理解し，運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身につける。	探究活動 運動方程式、摩擦を受ける運動 圧力、空気抵抗 探究活動 仕事、力学的エネルギー 力学的エネルギーの保存	実験 力学的エネルギー	4 7 4 8
第２回考査					1
9 10 11 11	第２編　熱 第１章 熱とエネルギー 探究 探究 第３編　波 第１章　波の性質 第２章　音	熱に関する現象の基本的な概念や法則を理解し，基礎的な見方や考え方を身につける。 波に関する現象の基本的な概念や法則を理解し，基礎的な見方や考え方を身につける。	温度と熱 熱量、熱量保存 仕事と熱 探究活動 探究活動 波の性質、波の式、回折、干渉 縦波と横波、定常波 音、共振と共鳴	熱量の保存 実験 発表等 気柱の共鳴	7 2 6 8
第３回考査					1
12 1 2	探究 第４編　電気 第１章 物質と電気 探究 第２章 磁場と交流 第５編　物理学と社会 第１章 エネルギー利用	電気や磁気に関する現象の基本的な概念や法則を理解し，基礎的な見方や考え方を身につける 「物理基礎」で学んだ事柄が，日常生活や科学技術と結びついていることを理解する	探究活動 電気の性質、帯電、流と電気抵抗 電気とエネルギー ジュール熱、電力量と電力 探究活動 電流と磁場　交流と電磁波 エネルギーの利用 エネルギー資源と発電 SDGｓ	オームの法則 手回し発電機	3 5 1 5 5
第４回考査					1
3	探究		探究活動		5

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	自然の事物・現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
評価方法	小テスト 実験レポート 定期考査	実験レポート 定期考査	発言・質問、出欠状況 実験レポート 定期考査

令和５年度シラバス【体育】

長野県伊那北高等学校

科目	体育	単位数	2	授業時間[総時数]	５５分［６４回］	学年	1	学科	普通科理数科
使用教科書	現代高等保健体育（体育理論）	副教材等	なし						
学習の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質や能力を身に付ける。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。 ・課題の解決に向けて思考・判断し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える能力を身に付ける。 ・公正、協働、責任、参画などの態度を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ力を身に付ける。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4	体つくり運動	・健康、安全の確保とフェアなプレイ態度の育成 ・体力の向上を図ることのできる能力の育成と各種目技能の向上 ・個人技能の向上と集団における効率的な動きの習得	・体ほぐしの運動		3
			・スポーツテスト		3
5	球技Ⅰ		・ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ、ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ、ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ、ﾃﾆｽから１種目選択		7
6	ダンス		・現代的なリズムのダンス		4
7	球技Ⅱ		・ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ、ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ、ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ、ﾃﾆｽから１種目選択		7
8	体育理論		・スポーツの発祥と発展		3
9	球技Ⅲ		・ｻｯｶｰ、ﾃﾆｽ、ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ、ｿﾌﾄﾊﾞﾚｰから１種目選択		7
10	陸上競技		・競走（長距離走）		6
11	球技Ⅳ		・ｻｯｶｰ、ﾃﾆｽ、ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ、ｿﾌﾄﾊﾞﾚｰから１種目選択		7
12	球技Ⅴ		・ﾊﾞｽｹｯﾄ、ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ、卓球から１種目選択		7
1	球技Ⅵ		・ﾊﾞｽｹｯﾄ、ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ、卓球から１種目選択		7
2	体育理論		・スポーツの発祥と発展		3

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①ゲーム中での技能発揮 ②種目における体力向上 ③技能の観察と分析力 ④空間を作る動き	①合理的な動きや運動成果、改善点を仲間に伝える力 ②自己に適した運動の関わり方と合意形成への貢献	①主体的に取り組む姿勢 ②健康安全への理解 ③相手を尊重する態度やフェアなプレイ態度、協調性

評価方法	各種目において、ゲームや技能テストを観察で評価する。	ゲームや技能テストでの観察。グループノートの提出がある種目は、内容でも評価。	出席を評価。観察でも評価する。

令和５年度シラバス【保健】

長野県伊那北高等学校

科目	保健	単位数	1	授業時間[総時数]	５５分［３２回］	学年	1	学科	普通科理数科
使用教科書	現代高等保健体育	副教材等	なし						
学習の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質や能力を身に付ける。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、その技能を身に付ける。 ・自他や社会の課題を発見し、課題の解決に向けて思考・判断し、他者に伝える能力を身に付ける。 ・生涯を通じて自他や社会の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かなで活力ある生活を営む態度を身に付ける。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6 7 8 9	現代社会と健康	・現代社会と健康について理解を深める ・課題の解決方法とそれを選択した理由などを話し合ったりノートに記述したりして筋道を立てて説明することができるようにする。	①健康の考え方 ②生活習慣病などの予防と回復 ③喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 ④精神疾患の予防と回復 ⑤現代の感染症とその予防	食生活を家庭科と連携 生物と連携	3 3 4 4 5
第２回考査					1
10 11 12 1 2	安全な社会生活	・安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当を適切にすることができるようにする。	①安全な社会づくり 交通事故 安全な社会の形成 ②応急手当 応急手当 日常の応急手当 心肺蘇生法		5 6
第４回考査					1

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

	①現代社会と健康、安全な社会生活について理解を深めている ③応急手当を適切に行うことができる	①自他や社会の課題解決方法とそれを選択した理由などを話し合ったり、ワークシート等に記述したりして道筋を立てて説明できる	①主体的に取り組む姿勢 ②話し合いへの参加 ③主体的に自ら学び、課題解決のために調べたり、書き出したりしている。
評価方法	考査で評価。 技能に関しては、観察。	考査で評価。観察及びワークやノートによる評価もある。	出席を評価。観察及びワークやノートによる評価もある。

授業を受ける上での留意点

＜体育＞

1　実技科目の特性上、出席を特に重視します。遅刻（開始から 20 分以内）は 3 回で欠席 1 とする。
　また、各種目 3 回以上の欠席は、評価に関わります。

2　病気、怪我等で長期間にわたって授業を欠く場合は、診断書等の提出が必要な場合があるので、教科担任に相談すること。見学については、教科担任に授業前に申し出て、指示を受けること。

3　意欲的に活動するだけでなく、準備運動や服装など健康安全についての理解も重視すること。

4　上下履きの区別、体育館シューズと上履きの区別、運動のできるジャージの着用等、ルールを守ること。

5　施設・用具を大切に使用し、使用後は必ず返却し、清掃等を行うこと。

＜保健＞

1　出席を重視します。遅刻（開始から 20 分以内）は 3 回で欠席 1 とする。
　また、半期 3 回以上の欠席は、評価に関わります。

2　年 2 回の定期考査を行います。

3　レポートを課すこともあります。

長野県伊那北高等学校

科目	音楽Ⅰ	単位数	2	授業時間 [総時間]	５５分 [６４回]	学年	1	普通科 理数科
使用教科書	MOUSAⅠ（教育芸術社）	副教材等	愛唱歌集（長野県高等学校音楽教育研究会）					
学習の目標	音楽の幅広い活動を通して，音楽的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の音や音楽，音楽文化 と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。							
具体的な取り組み・指導上の注意点	・仲間とのコミュニケーションを大切に。 ・歌、楽器、ポップス、クラシック、楽典、世界音楽など幅広い音楽を扱う。 ・単元ごとに発表会もしくは実技テストを行う。 ・歌う、演奏するだけで終わるのではなく、考えたり話し合ったりする活動もある。							

月	単元名	学習内容	目標	知技	思判表	主体的	時数
4 5 6 7	リトミック	・コミュニケーションゲーム	・ビートを身体で感じ、表現することができる。	○		○	1
		・エンカウンター		○		○	1
		・リトミック		○	○	○	2
	歌の楽しみ	・ポップス	・季節の歌やポップスを伸び伸びと歌う。	○	○	○	2
		・春の唱歌		○	○	○	2
	楽典	・音符、休符	・西洋音楽の基本的ルールを理解する。	○		○	1
		・拍子		○		○	1
		・音名		○		○	2
	歌曲を歌おう	・イタリア歌曲	・外国語の歌曲を歌詞や構成を意識して歌うことができる。 ・楽曲の構成を理解するとともに、日本語の響きを大切に歌う。	○	○	○	3
		・ドイツ歌曲		○	○	○	2
		・日本歌曲		○	○	○	2
	クラシックギター	・ギターの基本的奏法	・クラシックギターの基本的奏法を理解し、演奏できる。	○		○	4
		・ギターアンサンブル		○	○	○	2
8 9 10	鑑賞	・ラベル作曲「ボレロ」	・楽曲の構成とオーケストラの楽器の関わりを理解できる。	○	○	○	1
	合唱	・混声四部合唱	・合唱にふさわしい発声や、響きの合わせ方を意識しながら歌う。	○	○	○	5
	創作	・２部形式の曲の作曲	・フレーズの終止感や曲の形式を理解し、旋律をつくる。				4
	ミュージカルの楽しみ	・サウンドオブミュージック	・ミュージカルナンバーの魅力を感じ、表現することができる。	○	○	○	6
11 12	ソルフェージュ	・単旋律の視唱	・初歩的な視唱力を身に付けるこ	○		○	4
	Ｊｐｏｐを演奏しよう	・バンドの体験	・自分のパートの役割を理解し、バンド演奏することができる。	○	○	○	6
	和楽器に親しむ	・箏	・箏の歴史と基本奏法の理解。 ・箏独特の奏法を身に着け演奏できる。	○	○	○	6
1 2	コンサートをつくろう	・クロスペンコンサートの企画	・自身の演奏と共に、コンサートに必要な仕事を企画、準備することができる。	○	○	○	6
		・クロスペンコンサートの実施	・コンサートを運営、実施することができる。	○	○	○	1

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①楽曲の文化的・歴史的背景や構造と、曲想との関わり及びその多様性について、音楽活動を通して理解している。 ②音楽表現を創意工夫したり、自分の表現意図を音楽で表現したりするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	①音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽表現を創意工夫し、表現意図をもっている。 ②音楽的な見方・考え方を働かせて、楽曲や演奏を解釈したり、生活や社会における音楽の価値を考えたりして、音楽のよさや美しさを創造的に味わって聴いている。	①音楽活動の喜びを味わい、主体的・協働的に学習に取り組もうとする。 ②自らの学習状況を把握し、それを踏まえ試行錯誤するなど、自ら学ぼうとしているか。
評価方法	プリント課題 小テスト 実技テスト	小テスト 練習の取り組み 実技テスト	プリント課題 質問 練習の取り組み

令和５年度シラバス【美術Ⅰ】

長野県伊那北高等学校

科目	美術Ⅰ	単位数	2	授業時間[総時数]	５５分[６４回]	学年	1	学科	普通科理数科
使用教科書	高校生の美術（日本文教出版）	副教材等		なし					
学習の目標	創造的な活動を通して、造形的な見方・考え方を培い、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成する。								
・具体的な取り組み ・指導上の注意点	○スケッチやデッサンなどにより観察力、思考力、描写力などが十分に高まるよう配慮する。 ○主題の生成から表現、完成に至る全過程を通して、自分の良さを発見し喜びを味わい、自己実現を果たしていく態度の形成を図る。 ○造形要素の働きを理解すること。 ○造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。 ○アイデアスケッチなどで構想を練ったり、言葉などで考えを整理したりすることや、作品について批評し合う活動などを取り入れるようにする。								

月	題材・学習内容	学習のねらい・内容	指導目標	時数
4 5 6	1　鉛筆デッサン ・遠近法、陰影法の学習 ・立方体・円柱を描く	・デッサンにおける基本的な技法を学ぶ。道具の使用法、姿勢、観察眼を習得する。	・形や空間を平面に描くために必要な技術を、実践を通して理解する。	10
第１回考査				
6 7 8 9	2　風景画制作 ・遠近法、陰影法 ・３原色の学習 ・アクリル絵の具	・上記の技術を実際の絵画制作に応用する。 ・色の仕組みを理解する。 ・絵画制作を楽しむ。	・知識や技術を応用し試行錯誤して画面作りをし、絵画表現の面白さを感じる。	24
第２回考査				
9 10 11	3　生活の中のデザイン ―木のスプーン制作― ・道具をデザインする ・材料の特性と加工方法	・使う用途、場面、心地を考えてデザインする。	・材料や用具の特性を生かす。 ・身近なデザインの面白みを分析できる感性を磨く。	20
第３回考査				
12 1 2	4　抽象絵画・コラージュ	・複数の異なる要素を組み合わせて生まれる効果を楽しみ、テーマを表現する。	・素材を生かして表す。 ・主題を生成し表現方法を工夫し、個性豊かに表す。	10

第４回考査			
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めた。意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができる。	造形的な美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練り、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、納得いくまで探求し作品を完成することができた。 感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を育んだ。
評価方法	作品・レポート	作品・レポート・プレゼンテーション	制作に向かう姿勢・提出物・出席状況

１．学習を始めるにあたり

美術の魅力は問に対する答えが一つではないところです。授業では、自分の解答を試行錯誤しながら、最後まで作りきることを重要視しています。上手い下手ではなく、自分の心地よい表現を追求し作品にしてください。作品を作ると、きっと他の人の個性や自分の強みが見えてきます。

また、教室内で磨ける感性には限度があります。自分の周りの動植物、建物、広告、人工物などの身近な造形物にも観察の目を向け、自分の「わくわく」や「好き」を感じてください。

２．美術系大学進学希望者へ

アートやデザインは我々の生活に至る所に関わっています。人間の営みそのものと言っても過言ではなく、美術は社会の中で人の心や体に直接ふれるものです。今、美術の重要性はますます高まっており、混迷した現代社会のなかから大切なものや真実を見つけだすのも美術の役割です。活躍のフィールドはあらゆるところに用意されています。社会はあなたの表現やアイデアを待ち望んでいます。さあ、無限の広がりと可能性のあるアートの世界へ旅してみましょう。

美術系大学の入試では学科試験に加え実技試験が科せられます。試験内容は大学や学部によって様々で異なりますが、かなりのレベルを要求されるため、美大・芸大受験をするにはエネルギーと時間を要し、また、妥協しない美の追究と自分探しの修練が不可欠となります。例えば、デッサンを描き色や形を使い制作することによって、今自分に何が必要かを自身の作品があなたに語りかけてくれるはずです。美術系大学への進学希望者または選択肢の一つと考えている人は早めに相談してください。まずは最初の一歩を踏み出してみましょう。

英語　(英語コミュニケーション・論理表現)

Ⅰ．英語学習の心構え

１．継続は力なり

残念ながら人間は忘れる生き物です。エビングハウスの忘却曲線が示すように、今日覚えた内容は明日になると７割忘れています。また、一週間が 168 時間あるのに対し英語の授業に充てられる時間はたったの５時間ほど。それだけの時間で果たして英語が身につくのでしょうか。答えは否です。皆さんが英語を読み、聞き、書き、話し、英語を使って考える力を得るためには時間をかけて鍛錬を積むしかありません。急がば回れ。毎日少しずつでもよいので、英語に触れる時間を確保しましょう。

２．予習・復習の徹底

では、皆さんが毎日英語に触れるためには何をしたらよいのでしょうか。新しく教材を買って取り組むこと？英会話教室に通うこと？YouTube で洋楽を聞くこと？どれも完全に間違っているとは言えません。使いようによっては力になります。しかし、それよりも大事にしてほしいのは授業です。まずは授業内容を理解すること、そこで得た知識技能を使いこなせるようになることが大前提です。単語の確認、本文の訳、音読、課題やワークの取り組みなどやるべきことはたくさんありますよ。

３．授業を学びの中核に

先ほど授業外の学習について触れましたが、だからといって週に約５時間ある授業をないがしろにして良いわけではありません。たかが５時間、されど５時間です。その５時間の中でできるだけ多くの知識を吸収しましょう。それがあなたの３年間、そしてその先の学びを支えます。教材の使い方、内容の理解と考察、英文解釈の方法、文法の使い方や意味といった“学びの作法”を授業の中で身につけましょう。

４．英語は言葉！英語は実技科目！

日本語を読んで書いて使えるようになった人は皆さんの中にいませんよね。言葉は本来聞いたり話したりして身につけるものです。また、本で泳ぎ方を学んだだけでは泳げないのと同じように、英語は実際に声を出さないと話せるようにはなりません。またアスリートが何度も素振りや筋トレを繰り返して、自分の体に覚えさせたり、筋肉をつけたりするのと同様、英語も自分の口や耳を使って、身につくまで何度も繰り返すことが求められます。**英語は実技科目－「自分」でどんどん使うことが重要**です。

Ⅱ．学習の仕方

１．単語帳（LEAP）

・週に 50 個ずつ小テストを行う予定です。毎日単語帳を開く癖をつけましょう。

・単語の勉強法（例）

１)自分で声に出しながら読む（少なくとも３週はしよう）

２)赤シートを用いて日本語訳を隠し、自分で訳す

３)一目でわからなかった単語に印をつけ、再度声に出して読む

４)英単語を隠し、日本語訳を見ながらノート等に単語を書く

５)右ページの例文を声に出して読む

6)例文を参考にしつつ、単語を使って自分で英文を作ってみる
7)アプリ「数研 Library」を使い、音声を聞いて単語クイズに挑戦する

2．English Central

・ビジネスシーンで使える表現や文法解説、海外文化の紹介など様々なジャンルの動画を見ることができるコンテンツです
・興味のあるタイトルを選んで視聴しましょう
※初めのうちは「初級」を選択して易しいものをたくさん見るのがおすすめです！
・単語のタイピング、音読、Speaking にも挑戦しましょう
・数か月ごとに課題として進度を設定しますが、自分でどんどん気になる動画を見て進めていただいてかまいません。
・目標は１日１動画！

3．授業

【予習】

教科書の文章や説明を一度読んでみて、単語や構造、訳が分からない箇所にマーカー等で印をつけてどこが分からないのかを明らかにします。自分で辞書や参考書を用いて調べてみるもよし、それでもわからなければ授業中の解説を聞くことによって疑問を解決しましょう。

【授業】

予習段階で分かった不明点をなくすように、集中して解説を聞きましょう。ペアワーク・グループワークも行いますので積極的に参加してください。

【復習】

教科書の記述や授業中に用いたワークシート等を見返し、きちんと頭に入っているか確認しましょう。教科書の文章や英会話、文法を用いた例文に関しては繰り返し音読し、頭にインプットします。自分で使いこなせるようになることが目標ですので、音読を継続することで単語や表現を口に馴染ませてください。

Ⅲ．成績

成績は年に４回ある定期考査・長期休み後の課題テスト・毎週行う小テストの点数、長期休み等に出される課題の提出率、その他授業中に課されるプレゼンテーションなど各アクティビティの成果を基につけます。

令和５年度シラバス【英語コミュニケーションⅠ】

長野県伊那北高等学校

科目	英語コミュニケーションⅠ	単位数	3	授業時間 [総時間]	５５分 [９６回]	学年	3	普通科 理数科
使用教科書	New Rays English Communication Ⅰ(いいずな書店)	副教材等		New Rays English Communication Ⅰ Workbook Advanced、English Central　他				
学習の目標	国際化が進む社会において地球市民として、英語を学ぶことで自らの世界を広げ、バランスの取れた英語の運用能力を高めることで自らの未来を切り開いていくことを目指す。							
具体的な取り組み・指導上の注意点	(1)総合的な英語力の向上を目指し、5つの領域(Listening,Reading, Interaction,Presentation, Writing)をバランスよく取り入れた活動に取り組む。 (2)日々英語に触れることを目指し、英語を英語のままで理解できるための礎を築く。 (3)授業ではペアワーク等を積極的に取り入れ、考えながら主体的・協働的に学ぶようにする。							

月	単元名	学習内容	目標	知技	思判表	主体的	時数
4～6	1 The Future Is Yours	これからを生きる力、スピーチ	自分の興味関心に目を向けスピーチをする	○	○	○	23
	2 The Power of Design	デザインの力	デザインの魅力、役割、影響について学ぶ	○	○	○	
第1回　定期考査				○	○		1
6～9	3 Plastic Is Everywhere	問題解決の力	プラスチック汚染問題解決のための方法を考え、ポスターを作る	○	○	○	21
	4 Orihime - A Vehicle of Your Heart	癒しの力	Orihimeの活用法を考え発表する	○	○	○	
	5 Satoko and Nada	対話の力	異文化理解、他者との共生について学ぶ	○	○	○	
第2回　定期考査				○	○		1
9～11	6 The Voice of Children	表現の力	状況を描写し、レポートする	○	○	○	23
	7 Human Habitation on Mars	探索の力	宇宙に関して調べてまとめる	○	○	○	
	8 A loving Story	愛の力	グループでセリフを考え、演じる	○	○	○	
第3回　定期考査				○	○		1
12～2	9 Edo, the Resilient City	歴史の力	江戸市民の文化やレジリエンスについて学ぶ	○	○	○	21
	10 A Quality Education for All	教育の力	教育や学校をめぐる問題について考え、発表する	○	○	○	
	R1 The Window	物語	物語を味わう	○	○		
第4回　定期考査				○	○		1
3	R2 The Tale of the Three Brothers	物語	物語を味わう	○	○		4

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	基本的な文章構成を理解しているとともに、文章や会話の内容を理解するための語彙、英文法や構文の知識を身につけている。	情報・事実・意見を読み取り、理解できる思考力・判断力がある／書かれた内容や自分の考えを自分の言葉でまとめ、伝わるように表現する力をつけている	授業や家庭学習において目標を持ち、主体的に取り組んでいる／仲間と協働しながら積極的に言語活動に取り組んでいる
評価方法	考査（定期考査、課題テスト、小テスト等）	授業中に課された課題・プロジェクト、考査、パフォーマンステスト	ペアワーク・グループワークの取り組み、課題提出や取り組み

令和５年度シラバス【論理表現Ⅰ】

長野県伊那北高等学校

科目	論理表現Ⅰ	単位数	2	授業時間 [総時間]	５５分 [　64回　]	学年	1	普通科 理数科
使用教科書	FACTBOOK English Logic and Expression Ⅰ（桐原書店）	副教材等		総合英語SKYWARD（桐原書店） FACTBOOK Workbook Mastery（桐原書店）他				
学習の目標	国際化が進む社会に生きる地球市民として英語を学びながら世界を広げ、特に話すこと[やりとり]・話すこと[発表］・書くことの領域をを高めることで自らの未来を切り拓いていくことを目指す。							
具体的な取り組み・指導上の注意点	(1) 5 つの領域の活動を取り入れ、特に英語を話したり、書いたりする発信力を高めることを目指す。 (2)中学の既習事項の定着を図り、日常的な話題について明確に伝わる表現ができるようにする。 (3)ペアワーク等を積極的に取り入れ、協働的に学び、お互いに高めあえるようにする。							

月	単元名	学習内容	目標	知技	思判表	主体的	時数
4～6	0 Get to know more about your classmates	学校生活・自分の好きなこと	文型・文の種類・時制 ショートスピーチを作成し、発表しよう	○	○	○	12
	1 Smart home, smart city	科学技術と未来生活		○	○	○	
	2 History and future of our town	地域社会・まちづくり		○	○	○	
第1回考査				○	○		1
6～9	3 Preparing for a natural disaster	自然災害・防災	助動詞・受動態・不定詞 プレゼンテーションをしよう	○	○	○	12
	4 Water supporting our lives	水をめぐる問題		○	○	○	
	5 Save food you can still eat!	フードロス問題		○	○	○	
第2回考査				○	○		1
9～11	6 How can we become more health conscious? 7 How many clothes do you buy? 8 How do you decide which products to buy?	健康・ライフスタイル	動名詞・分詞・比較 ディベートに挑戦しよう	○	○	○	16
		ファッションと環境問題		○	○	○	
		フェアトレード		○	○	○	
第3回考査				○	○		1
12～2	9 A variety of ways to improve your English 10 How can we become foreigner-friendly?	教育・学びの多様性	関係詞・仮定法 ディスカッションに挑戦する	○	○	○	16
		外国人観光客		○	○	○	
第4回考査				○	○		1
3	How can we become foreigner-friendly?	在留外国人との共生	1年間のまとめ	○	○	○	4

評価規準評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	基本的な文章構成を理解しているとともに、文章や会話の内容を理解するための語彙、英文法や構文の知識を身につけている	情報・事実・意見を読み取り、理解できる思考力・判断力がある／書かれた内容を自分の考えを言葉でまとめ、伝わるように表現する力を身につけている	授業や家庭学習において目標を持ち、主体的に取り組んでいる／仲間と協働しながら積極的に取り組んでいる
	考査（定期考査・課題テスト・小テスト）	授業中に課された課題／考査（英作文） パフォーマンステスト	ペアワーク・グループワークの取り組み 課題提出

家庭科「家庭基礎」

１．はじめに

家庭基礎では生活を取り巻く環境の変化や、多岐にわたる社会の変化。生活に関わる法律や制度の改正など、扱う内容も幅広いものになります。ひと昔前の「家庭科＝料理と裁縫」という意識では学びを深めることが難しい科目です。自立した大人となるための知識やスキルを身につけ、現状の課題や改善策について考え主体的に学んでいきましょう。

本校では、家庭科の授業が１年生の必修科目となっています。３年間の高校生活の中でクラス単位で家庭科の授業を受けるのは、１年限りのわずかな時間です。４０人程の大人数での受講です。座学が中心になりますが、調理実習や衣生活実習も行います。安全・安心な授業にするためには生徒諸君の協力が必要となります。学び合う、教え合うコミュニケーションも大切にしながら取り組みましょう。

２．学習目標

人の一生と家族・福祉、食衣住、消費生活などについて学ぶなかで、基礎的・基本的な知識・技術を習得するとともに、国際化・情報化が進展し生活様式の多様化が進む現代社会において、男女がともに主体的に生活を営み、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につけよう。

３．使用教材

教科書「家庭基礎　～自立・共生・創造～」東京書籍
資料集「Super　Live　View」東京書籍
学習ノート「家庭基礎学習ノート」東京書籍

４．評価方法

考査点・学びに向かう姿勢・出席状況・提出課題（レポート）・作品等により総合的に判断します

５．シラバス

<table>
<tr><td colspan="2">科目</td><td>家庭基礎</td><td>単位数</td><td>2</td><td>授業時間
[総時数]</td><td>５５分
[６４回]</td><td>学年</td><td>1</td><td>学科</td><td>普通科
理数科</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用教科書</td><td>家庭基礎
自立・共生・創造</td><td>副教材等</td><td colspan="6">Super Live View家庭科　資料＋食品成分表成分表
家庭基礎　学習ノート</td></tr>
<tr><td colspan="2">学習の目標</td><td colspan="9">生活の営みに係わる見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。</td></tr>
<tr><td colspan="2">具体的な
取り組み・
指導上の
注意点</td><td colspan="9">・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、社会との関わりについて理解する。
・社会における生活の中から問題を見いだし理論的に表現し、課題を解決する能力を養う。
・調理実習や衣生活実習などを行い、仲間と協働し主体的に創造する実践的な態度を養う。
・定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。</td></tr>
<tr><td>月</td><td>単元名</td><td colspan="2">指導目標</td><td colspan="4">学習内容</td><td colspan="2">備考</td><td>時数</td></tr>
<tr><td>4
5
6
7
8</td><td>家族・
社会と
の共生
生活の
自立</td><td colspan="2">人の一生と家族・家庭及び福祉について基礎的な理解を図り、係わる技能を身につける。家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだし課題</td><td colspan="4">・自分らしい人生をつくる
・子どもと共に育つ
・高齢社会を生きる
・共に生き、共に支える
・食生活をつくる</td><td colspan="2"></td><td>２５</td></tr>
</table>

9		を設定し、解決策を構想、表現し、解決する力を養う。			

第２回考査					
9 10 11 12 1 2	生活の自立	人の一生と衣食住、消費生活、環境などについて基礎的な理解を図り、係わる技能を身につける。家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだし課題を設定し、解決策を構想、表現し、解決する力を養う。	・食生活をつくる ・衣生活をつくる ・住生活をつくる ・経済生活を営む	調理実習 衣生活実習	３３
第４回考査					1
3	生活の自立	生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解し、実践する力を養う。	・消費生活と環境		4

評価基準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生活の営みに係わる基礎的な知識と技術を身につけている。	生活の営みに係わる見方・考え方を働かせ、見通しをもって課題を設定し、解決策を構想し、根拠に基づいて理論的に表現している。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、自分の家庭、地域生活の充実向上を図ろうとする実践しようとしている。
評価方法	提出課題 復習テスト 定期考査	提出課題 定期考査	発言・質問、出欠状況 提出課題 定期考査

６．留意事項

（１）調理実習では、各自エプロンと三角巾（タオル・手ぬぐい可）を持参してください。

（２）食物アレルギーがある人は、教科担当者へ事前に申し出てください。

「ＶＵＣＡの時代」という言葉を聞いたことがありますか？これは“Volatility（不安定/変動性）”“Uncertainty（不確実）”“Complexity（複雑）”“Ambiguity（曖昧）”の４つの頭文字を取ったもので、現代を端的に表現するキーワードとしてしばしば用いられています。私たちがこれから生きていこうとしている社会は、先の見通しがはっきり持てない、複雑なものだということを表しているのです。

ものすごいスピードで変化していく社会、日進月歩で技術革新が進む社会。その中で変わらずに大切にしていかなければならないものはたくさんあります。しかし、対応できるように変化が求められるものもあります。その一つが「学び」の形です。これまでは、国語、数学…と各教科でたくさん知識を身につけることが求められ、テストや入試ではどのくらいの知識を身に付けているかが試されてきました。けれども、これからはむしろ身につけた知識を土台にして、自ら課題を見つけ、課題を解決するために考え、さまざまな知識を活用していくことや、周りの人と一緒に議論しながら物事を進めていくこと、人に伝えたり発表したりすることが求められていきます。

「総合的な探究の時間」と聞いて、いったい何をするんだろう？と思ったかもしれませんね。実はこの時間こそが、これからの時代に必要とされる力を実践的に身につけていく教科なのです。「柔軟な発想力・想像力」「主体性・能動性」「コミュニケーション能力・協働性」をつけることを目指して、ＳＤＧｓ（持続可能な到達目標）を意識しながら、次のようなことに取り組んでいきます。

1　探究（課題研究）の基本を学ぶ

・探究や研究の基礎を学ぶ　　・SDGｓについて学び、社会の課題を知る

・情報の集め方、整理の仕方、扱い方を学ぶ　・問いの立て方を学ぶ

2　探究（課題研究）の実践

A　課題研究に向けた情報収集

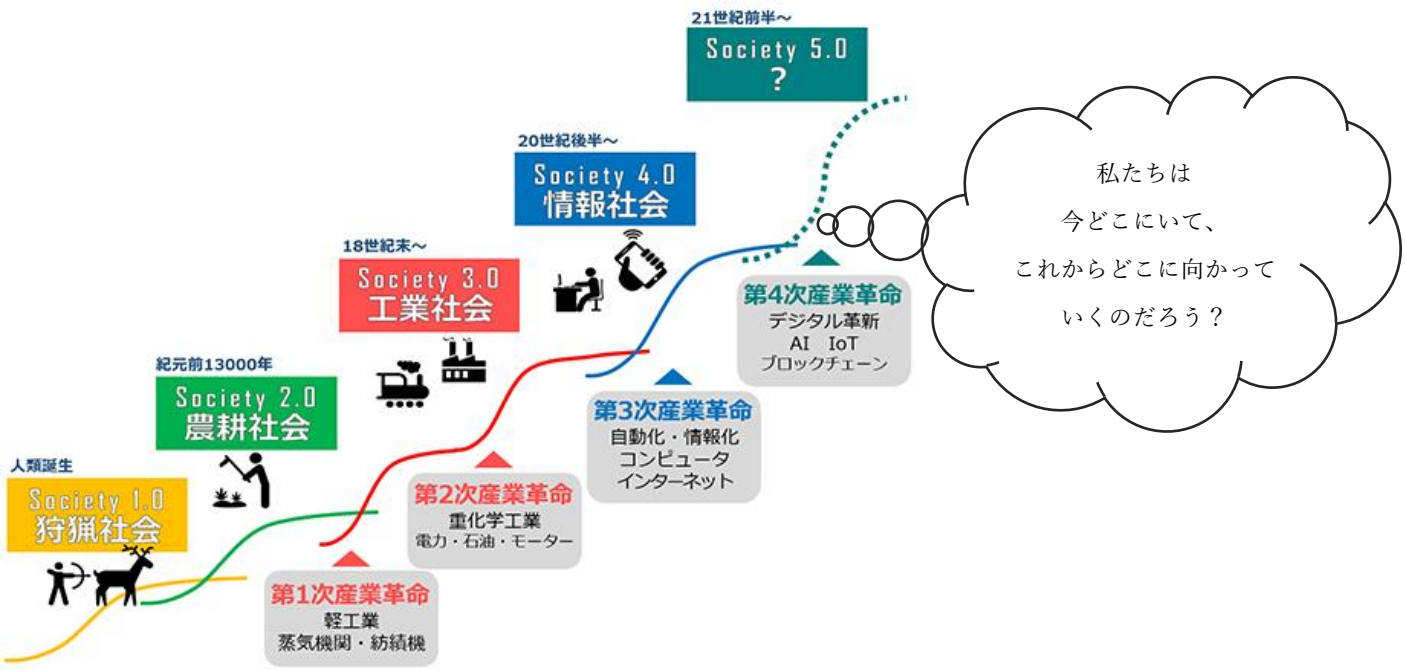
①こんにちは先生（インタビュー）　・・・伊那北高校の先生の秘密を聞き出します。

②こんにちは先輩（インタビュー）　・・・地域で活躍する方のお話をうかがいます。

③フィールドワーク　・・・自らの興味関心に基づいてコースを選択し、校外学習を行います。

B　課題研究（グループでの活動）

C　課題研究発表



Society 5.0 －ともに創造する未来－（経団連）http://www.keidanren.or.jp/policy/society5.0.html?v=s より

令和５年度シラバス【総合的な探究の時間】

科目	総合的な探究の時間	単位数	1	授業時間[総時数]	５５分［３２回］	学年	1	学科	普通科
使用教科書		副教材等		課題研究メソッド改訂版（啓林館）					
学習の目標	(1)探究に関わる基本的な資質・能力を身につける。(2)地域や社会、もの、ことと自分自身の関わりから問いを見出し、その解決に向けて仮説を立てたり調査して得た情報を元に分析したりする力を身につけるとともに、論理的にまとめ、表現する力を身につける。(3)探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、お互いの良さを活かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようという態度を育てる。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	(1)SDGｓについて理解を深め、興味・関心の深い分野の課題について調べてまとめる。 (2)「考える・議論する・伝える」ための自分の言葉を磨き、豊かにし、またメディアの特性について学ぶ中で、情報の収集・整理の方法、伝わる表現の仕方を身につける。 (3) 地域における現状について、自己との関わりから課題を見つけ、問いを立て探究を進める。 (4)次年度の課題研究に向けて、視野を広げ、多角的な視点を身につけ、探究の手法を自分のものにしていく。								

月	単元名		学習内容	備考	時数
4 5 6 7	STEP1 探究 入門	・探究とは何か ・SDGｓについて ・メディアリテラシー ・学ぶことについて ・こんにちは先生 ・フィールドワークⅠ	・探究的な学びを始めよう ・SDGｓについて理解を深める ・メディアの特性について知る ・学ぶとは学問とは何か ・インタビュー練習	左はあくまで目安であり、状況に応じて変更する可能性はある。	１５

8 9 10	STEP2 課題の 発見	・問いを立てる ・こんにちは先輩 ・フォールドワークⅡ ・ディベート	・問いの立て方について ・インタビュー実践 ・地域の課題について知ろう ・多角的な視点を持ち、議論をしよう		２１
10 11 12 1	STEP3 課題 研究と 発表	・課題研究 ・中間発表	・グループで地域に根ざした課題から問いを立て、探究を進める		１８
1 2	STEP4 まとめ	・発表会 ・振り返り ・来年度に向けて	-ポスターセッション -1 年間のまとめをし、来年度の課題研究に向けて構想を練る		6

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	探究的な学びの手法を身につけ、情報収集やインタビューの技能を向上させることができているか。	課題について総合的な見方･考え方ができているか。また探究の成果について､わかりやすく的確にまとめ、発表できているか。	情報の収集や分析、グループワークを主体的かつ協働的に行っているか。
評価方法	・レポート、振り返りシートなどを集積したポートフォリオによる評価。 ・ポスターセッションにおける評価。		

令和５年度シラバス【理数探究基礎】

長野県伊那北高等学校

科目	理数探究基礎	単位数	1	授業時間[総時数]	５５分［３２回］	学年	1	学科	理数科
使用教科書	理数探究基礎（数研出版）	副教材等	なし						
学習の目標	（１）理数探究基礎に関する基本的な知識を身につけるとともに、科学が生活と密着していることを理解する。【知識・技能】 （２）理数探究基礎に関心を持ち、自然現象や数学について、科学的な観点から問いを見出すことができる。【知識・技能・主体性】 （３）問いを検証可能な仮説として立案し、検証方法を吟味し、適切な方法で表現することができる。　【思考・判断・表現】								
具体的な取り組み・指導上の注意点	（１）一年間を通して、教科書を参考にしながら研究の進め方を学ぶ。科学と自己との関わりから課題を見出していく。 （２）見出した課題について、さまざまな媒体から情報を入手し、得られた情報を精査・分析する。情報のリテラシーを学び、価値ある情報を得て研究ができるようにする。 （３）精査・分析して得られた結果を発表しあい議論する中で、最適解を模索する。 （４）校内研修・校外研修の場を利用して、最先端の研究を学ぶ。 （５）PDCA のサイクルを複数回回すことで、科学的な思考力を身に着ける。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6	ＳＴＥＰ１ 研究とは何か	研究とは何か 課題の設定	・理数探究基礎の流れ	理数物理、理数生物との教科（科目）連携をする。	8
7 ～ 11	STEP2 生命科学を通して学ぶ理数探究基礎	研究の基本的な手法を学ぶ	・先行研究調査 ・実験計画を立てる ・実験実施、データ整理、考察 ・発表	理数物理、理数生物との教科（科目）連携をする。	14
11 ～ 1	ＳＴＥＰ３ 様々な分野を通して学ぶ理数探究基礎	数学・環境科学を通して研究に取り組み、基本的な手法を学ぶ	・先行研究調査 ・実験計画を立てる ・実験実施、データ整理、考察 ・発表	理数物理、理数生物との教科（科目）連携をする。	8
2 3	ＳＴＥＰ４ 発表・振り返り	まとめ 来年度の計画	・効果的なプレゼンの方法		2

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・理数に関わる学習対象について、知識を身につけ、総合的見方・考え方ができているか。	・理数に関わる課題について、適切な問いを立てているか。 ・研究の成果について、わかりやすく的確にまとめ、発表できているか。	・情報の収集や分析を、関心を持って主体的に行っているか。

評価方法	・口頭発表による評価。 ・レポートなどを集積したポートフォリオによる評価。 ・評価カードや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価。 ・出席状況。